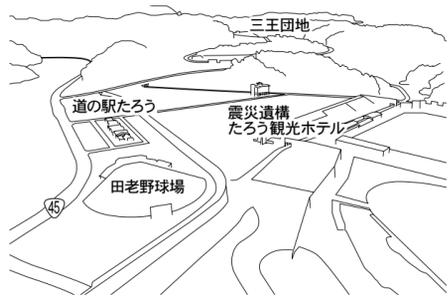


復興の歩み



岩手
宮古市

「学ぶ防災」 田老から発信

2005年の合併で宮古市となった旧田老町の市街地は、東日本大震災の津波で壊滅状態となった。付近の浸水高は16.6m、遡上高は29.8mに達した。震災前に4400を超えていた地区の人口は、10月1日時点で2861に減少。復興事業が大詰めを迎える中、新たなまちづくりの模索が続く。

明治三陸大津波(1896年)と昭和三陸津波(1933年)で計2770人が犠牲になった田老地区には、「万里の長城」に例えられた巨大防潮堤が築かれた。それでも市全体の死者・行方不明者の35%に及ぶ181人が震災で命を落とした。

市は国道45号の海側を災害危険区域に指定し、住宅建築を制限。2013年に岩手県内最大級の防災集団移転地となる三王団地の整備に着手し、15年9月に災害公営住宅71戸を含む230戸が完成した。基幹産業の漁業も大打撃を受けたが、12年9月に新たな田老魚市場、14年2月にはワカメの加工施設が整備された。全国ブランドの真崎ワカメは田老町漁協の主力商品だ。

中心部の住宅街の跡地は土地区画整理事業が進み、18年4月に道の駅たろうが本格開業した。田老野球場と一体で地区の拠点となっている。今年5月には新たな市田老総合事務所が開業。第三セクター三陸鉄道(宮古市)の新田老駅も同時に開業し、連絡通路で直結してより便利になった。

田老地区は津波防災の「聖地」とされる。防潮堤や震災遺構「たろう観光ホテル」、避難路を巡る「学ぶ防災」に年間約2万人が参加。活動のベースに「逃げていれば助かった命がある」との悔しさがある。



被災した田老地区中心部に整備された「道の駅たろう」。産直施設や飲食店が集積しただけでなく、「学ぶ防災」の拠点としての役割を担う＝10月31日

● まちのデータ

人口 2020年10月1日 5万1197人 11年3月1日 5万9229人 増減率 -13.6%

復興交付金 924億8055万円

犠牲者	死亡	行方不明	関連死
	420人	94人	55人

住宅被害	全壊	半壊	一部破損
	2677棟	1328棟	444棟

※復興交付金は復興庁まとめで、宮古市内で実施された岩手県事業への交付分を含む。人口、犠牲者、住宅被害は県と市まとめ



2020年

住宅は高台に移転した田老地区。かさ上げされた中心部に道の駅たろうと野球場ができた。約14kmの防潮堤建設も進む＝2020年8月29日



2011年

津波襲来で平地にあった住宅街は跡形もなくなった。写真奥は後に震災遺構になった「たろう観光ホテル」＝2011年3月25日

● まちの動き

- 2011年
 - 3月11日 地震発生。宮古で震度5強。市中心部に8.5m以上の津波が襲来し、約998mが浸水。津波遡上高は重茂姉吉地区で40.5mを記録
 - 7月25日 62カ所に仮設住宅全2010戸が完成。ピーク時1802世帯4096人が入居
 - 8月10日 指定避難所を全て閉鎖。最大88カ所開設され、ピーク時8889人が避難
 - 9月25日 グリーンピア三陸みやこ敷地内に共同仮設店舗「たろちゃんハウス」オープン
 - 10月31日 市震災復興計画(基本計画)を策定
- 2012年
 - 8月31日 市災害対策本部を廃止
- 2013年
 - 6月14日 田老地区防災集団移転促進事業が着工
- 2014年
 - 5月24日 震災メモリアルパーク中の浜がオープン
- 2015年
 - 7月1日 市応急仮設住宅撤去・集約化計画を策定
 - 11月22日 田老地区まちびらき記念式
- 2016年
 - 4月22日 田老野球場が移転復旧
- 2017年
 - 1月12日 市営災害公営住宅全563戸が完成
 - 4月23日 宮古市魚市場の増築棟落成式
- 2018年
 - 3月21日 三陸沿岸道田老真崎海岸-岩泉龍泉洞インターチェンジ(IC)間10kmが開通
 - 10月1日 イーストピアみやこ利用開始
- 2019年
 - 3月23日 JR山田線宮古-釜石間が三陸鉄道に移管され、リアス線(盛一久慈、163km)として全線開業
- 2020年
 - 1月18日 震災遺構「たろう観光ホテル」のエレベーター棟が完成
 - 5月15日 市田老総合事務所旧庁舎開庁
 - 18日 三陸鉄道の田老駅が開業。市田老総合事務所新庁舎が開庁
 - 7月12日 三陸沿岸道宮古中央ジャンクション-田老真崎海岸IC間17kmが開通



2010年

住宅が密集する田老地区中心部。X字状の二重防潮堤もあった＝2010年3月(一般社団法人東北地域づくり協会提供)

● まちの宝



田老かりんとう

東日本大震災で被災し、再出発した田老地区の老舗菓子店田中菓子舗の看板商品。渦巻き模様が特徴で、岩手を代表する土産品にもなっている。



瓶ドン

2018年に宮古観光文化交流協会の旗振りで考案され、人気を集める。三陸の海の幸を瓶に凝縮したご当地メニューで「見て」「盛って」「食べる」体験型の海鮮丼だ。